

# 寅さん歩 その19

## バーチャルウォークで

## 聖火を新国立競技場へ-2



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク(国内版) 沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース(仮想)1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会オランダ フォーデー マーチ(4日間で120km)を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、5km程度の散歩まで回復しましたが、完治はしていません。例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明が、このバーチャルウォークの目標でした。最後まで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**(ウォーキングの隠語で交通機関を利用)聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。

2020年7月24日の開会式までは2018年11月1日から約21ヶ月あります。毎月80km(4km×20日)を歩けば、十分届けられる計算です。一緒に歩く方はいませんか? 歩く土地や地域について学ぶのも良いですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れた通過の県の思い出や映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナとどんな恋をしていたのかを、お話ししていきたいと思います。

大きな被害をもたらした大型台風24号が立ち去った2018年10月1日沖縄県最北端の辺戸岬を出発し、10月27日記録帖の5kmのマス20個全部を塗り、那覇市に到着した聖火は空輸で10月28日鹿児島県に入りました。沖縄県から鹿児島県への引継はご当地 餃子で行いました。自由に発想を飛ばして、展開出来るのがバーチャルの楽しい所です。



写真上左は沖縄自慢の希少な「あぐー豚」を餡にたっぷり使っている「美ら園」の餃子。写真上右は鹿児島産の「たかえび」をまるごと使った「餃子の照照」の餃子。池袋T O B Uの食材対決で見つけました。

## [鹿児島県奄美大島市]

途中の島、奄美大島には立ち寄りませんが、ここは寅さんにとり因縁深い島です。「男はつらいよ」は最初TVドラマで渥美清が



寅さんを演じ、奄美大島でハブにかまれて死んで終わったところ、視聴者からの抗議が殺到し、映画「男はつらいよ」で復活したとは山田洋次監督の話です。

渥美清さんの最後の作品となった1995年12月公開の第48作「男はつらいよ

紅の花」で寅さんから神戸にいるとの連絡がありましたが、音信不通が続き、新聞の尋ね人欄に出した柴又のおいちゃん・おばちゃんでしたが、阪神大震災の特集TVでボランティア活動の寅さんを見て、ひと安心。妹さくらの夫の博さん「寅さんのような規則もめっちゃくちゃな人は震災後の混乱時には力を発揮するんだ」と評しています。

さくらと博の長男 満男は思い寄せていた高校の後輩の泉(後藤久美子)が柴又に来て、母の希望で見合いして結婚すると言います。

自分の気持ちを伝えられない満男、岡山県津山での泉の結婚式に出かけ、式に向かう車の行列を混乱させ、式は中止となります。満男は柴又には帰らず、夜行列車で鹿児島まで来て、港でリリーと出会います。リリーは奄美大島の名瀬港から小さな連絡船で行く、「たけろま島」に家を持ち、今では寅さんが居候して、満男と再会。結婚をやめた泉も満男の気持ちを確かめに奄美大島に来ます。

寅さんとリリーから恋の指南を受けた満男は泉に告白、満男の恋は実ります。でもこれは映画でのお話で、実生活では国民的美少女で愛称ゴクミの後藤久美子はフランス人F1ドライバーと結婚のため、さっさと日本を離れてしまいました。先日、週刊誌で母親似の22歳の長女が



日本でグラビアデビューしているのを見て年月の過ぎ行く早さを感じた寅次郎です。寅さん、みんなを連れて柴又に帰ります。リリーは東京の施設に入居の母親に会った後、しばらく柴又に滞在し、奄美大島に帰る時、リリーの「どこまで送ってくれるの？」に対する寅さん

のかっこいい言葉は「男が女を送るということは、その女の家の玄関まで送るものだ」（寅次郎、寅さん語録で一番好きな言葉で若い頃は寅さん気取りで使いました）リリーと一緒に奄美大島へ帰り、奄美大島は二人の終の棲家となります。「時々口けんかして旅に出ているようだが、又、島に戻り、仲良く暮らしているようだ」とは山田洋次監督の言葉。寅さんの最後のお相手はやっぱり「リリー」でした。

## 〔鹿児島県鹿児島市～鹿児島県霧島市・国分市〕

101 K m～200 K m



鹿児島県内の聖火は鹿児島市内から国分市を経て国道 10 号線で宮崎県都城市に向かいますが、鹿児島市郊外の指宿市や鹿児島おはら節で♪ 花は霧島 煙草は国分 燃えて上がるはオハラハー 桜島 ♪ と歌われる桜島(写真上左)や霧島市(写真上右)にも立ち寄ります。2018 年 N H K 大河ドラマ「西郷 (せご) どん」は徳川幕府を倒し、明治維新への新しい時代に向かう最終章で薩摩は盛り上がっています。

マスを塗りつぶす寅次郎の散歩コースは家の周りや電車・バスで出かけたスタート地からの散歩、都内で開催の東京都 W A 例会や J R 東日本開催の「駅からハイキング&ウォーキング」での途中までの参加など目的を持った散歩で変化をつけています。J R 東日本は距離を短くし、グルメ、アート、史跡ありの新企画「山手線からお S A N P O」（10 月 1 日～11 月 30 日）で参加層拡大を図っています。酷暑で歩く参加者減の対応策ですかね。「ウォーキング」だけでなく「お散歩」を取り入れたことを評価する「お散歩導入の先輩」寅次郎です。目的を持たない散歩は徘徊、目的を持って女性の後ろをつけて歩くのはストーカーで不審者です。ご注意のほど！

寅次郎の鹿児島県訪問は 2000 年 1 月「第 8 回いぶすき菜の花マーチ」の参加です。初めての九州歩きと安価なユースホステル初利用でした。一人での参加でしたが、ユースホステルの相部屋のお客は顔見知りの神奈川県の中高年のウォーカー 6 人で若者ではありませんでした(笑)



前日は薩摩の小京都といわれる知覧を訪ねました。江戸時代の薩摩藩武家屋敷の伝統的な保存建物を見学、神風特攻隊の出撃基地に残された「特攻平和記念館」で出撃する若い隊員の家族への遺書を読み、涙が止まりませんでした。若い頃は、海軍兵学校にあこがれていた、寅次郎、戦争は繰り返してはならないと強く思いました。

大会第一日目は本州で一番早い春を満喫しました。薩摩富士と呼ばれる開門岳と満開の菜の花。本土最南端の西大山駅、夢とロマンの怪獣「イッシー物語」で有名になった神秘のカルデラ湖の池田湖まで上り、ゴール後は指宿に戻り、名物天然砂蒸し風呂を楽しみました。男女入口は別々ですが、浴衣の下は下着なしで並んで入る混浴でしたが、手も足も出せないとはこのことでした（笑）



二日目は魚見岳に上り、美しい錦江湾を眺めました。ハワイの真珠湾のように、真珠湾攻撃の前には、この地で日本海軍の飛行訓練が行われたと本で読みました。大会終了後は地元の人がお勧めの西鹿児島駅近くの「鹿児島ラーメン」を堪能、本場のさつま揚げをお土産に帰りました。この辺は九州新幹線の誕生ですっかり変わってしまったことでしょう。

2002年「第10回記念大会」にもFWAの仲間と参加しましたが、今度は豪華に指宿市内のホテルに泊まりました。

映画の寅さんは1984年12月公開の第34作「男はつらいよ 寅次郎

真実一路」で鹿児島県に来ています。実家に戻った寅さん、裏の印刷工場のタコ社長の結婚したての娘の教育論でタコ社長と大けんか、上野でやけ酒を飲み、支払いが足りず、隣にいた証券マンに助けられます。寅さん翌日、お礼に新聞紙に包んだバナナを持って証券マンの会社に行き、又、二人で遅くまで飲み



酔って証券マンの牛久沼の家に泊めてもらい、美人の奥さんのふじ子(大原麗子)に出会います。遠距離通勤・企業戦士・中間管職の仕事に疲れた証券マンが失踪したとの連絡で寅さん、力にな

ろうと、実家の団子屋のあり金を借りて捜すと言い、おいちゃん、おばちゃんと大けんか。柴又にふじ子と息子呼び、励まします。ふじ子の清楚な美しさに惹かれて行く寅さん、実家の鹿児島で見かけたとの情報で美人の奥さんについて**鹿児島県枕崎**を訪ねます。実家では寅さんを「会社の部長さん」と紹介するふじ子、失踪証券マンは民宿で「寅さんの住所・氏名」を宿帳に書き、重苦しい展開はユーモアで救われます。許されない人妻への妄想に己の醜さを知り、反省して、旅に出ようとする所に証券マンが柴又に現れ、タクシーを飛ばして、牛久沼のふじ子の元へ連れて行く寅さん。奥さんとは一線を置き、行動していますが、揺れ動く気持を演じる寅さんの演技力に感心しました。



「切ない恋です。今度の恋はつらい旅です。この度は**真実**一路遙かです」との寅さんの言葉には、その律儀さが切なく感じられ、笑えない作品です。「寅さんとの旅が**一生忘れられない**」とのふじ子の言葉が救いです。

又、「自分の醜さを知ったならば、もう醜くはない」と寅さんを励ます博の言葉、「**煩惱**を知った寅は成長した証」との柴又帝釈天のご前様の言葉には重みを感じました。

記録帖の鹿児島県の20個のマスを塗りつぶし、国分市に到着したら、次の宮崎県のコースを紹介します。  
途中経過は次の「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は **官公庁の食堂めぐり-2** です。

平野 寅次郎 拝